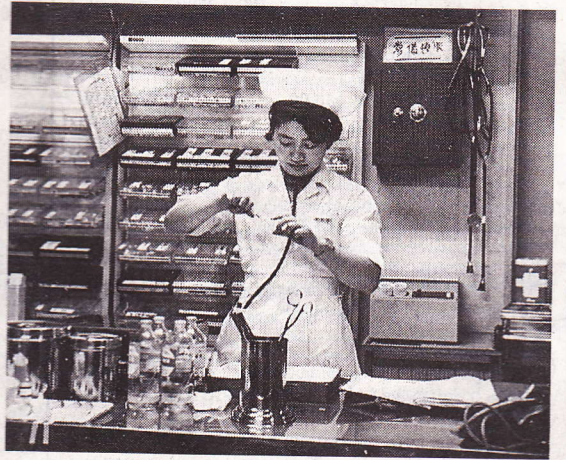




日本赤十字中央女子短期大学  
(現・日本赤十字看護大学)  
を卒業し、日本赤十字社中央  
病院(現・医療センター)へ  
就職した。新人時代は失敗の  
連続だったという。

新人時代に今でも忘れられない  
ミスがあります。病棟で何人かの  
患者さんに注射をしていたときに  
した。処方箋と名前をその都度確  
認していたのですが、全員終わっ  
たところで、1人の患者さんが「あ  
れ、おれの注射は？」と言っ  
て、おれは昨日までだったん  
だ。2人は同じ名字だった  
のです。血の気が引きまじった。  
先輩に相談したところ、1人は  
「私は師長さんが怖いからかわ  
ない」。すごく怖い看護師長だっ  
たからです。もう1人は「同じ薬



看護師としての基礎を学んだ秋  
田県立脳血管研究センター時代

## 日赤中央病院での新人時代は失敗の連続

### 故郷・秋田で経験積む、結婚を機に元の職場へ

#### ICU初代看護師長に、患者家族の願い知る

将来どのように  
生きるのか、私  
は楽しみにして  
います。本当  
に厳しい方だっ  
たのですが、こ  
れぞ師長と感動  
しました。  
病院に勤め  
始めたその  
年の大みそ  
か、村松さ  
んは辞表を  
提出するこ  
とになる。  
あいつついたら、看護主任に「あ  
なたを監視しに来たのよ」と言わ  
れたんです。カチンときました。  
悪いことなんてしていないのに。  
すぐに辞表を持っていきました。  
今思うと弾みでしたね。

故郷の秋田に帰り、翌年、秋田  
県立脳血管研究センターの立ち上  
げにかかりました。ここでも失  
敗の連続です。手術後の患者さん  
の包帯を替えるとき、医師から「こ  
のニワトリ！」と怒鳴られたこと  
もあります。もたつく私の補助は、  
ニワトリがエサをついばむように  
仕事を邪魔しているのだと。確か

いました。そこで働くつもりだっ  
たのですが、上京して学校へあい  
さつに行ったら、恩師に「自分が  
卒業したところはどこの？」  
と言われたんです。その一言で日  
赤に戻ろうと決めました。  
それから14年間、日本赤十字社  
一筋。子どもを産んで、育児をし  
ているときも、休職せずに働き続  
けました。私の性格では、一度現  
場を離れたらもう戻れないと思っ  
ていたのです。  
やがて医療センターにもICU  
を作ることになり、最初の看護師  
長に任命されました。最年少の師  
長でした。やはり秋田での経験が  
評価されたんだと思います。一か  
ら立ち上げなくてはならなかった  
ので、忙しかったですね。

だから大丈夫よ。明日、私から話  
してあげる」と言ってもらえまし  
た。その夜は一睡もできませんで  
した。

翌朝、師長に「実はミスをしま  
したが、怖くて報告ができません  
でした」と正直に報告しました。  
それを聞いた師長さんはこう言っ  
たんです。「あなたのそのミスが

私は労働組合に入っていないかっ  
たのですが、先輩から「行ってみ  
たら」と言われたので、団体交渉  
を傍聴に行ったんです。最後に「何  
か発言がある方は？」と聞かれた  
ので、手を挙げて「1人夜勤は無  
理です」と発言しました。  
そうしたら、翌日、院長と副看護  
監督が病棟にやってきました。

にその通りでしたから、その後、  
一生懸命、訓練しました。  
訓練・学習は同僚のナースも医  
師も協力してくれました。救急治  
療を行う病棟はなによりチームプ  
レーが大切ですから、一体感があ  
ります。ここではいろいろなこと  
を学びました。

秋田県立脳血管研究センター  
には約2年勤務。結婚を機に  
東京に戻る。

脳血管研究センターでの経験を  
買われて、集中治療室(ICU)  
を新設する病院に声をかけてもら

# 開業ナース、患者を自宅へ

②

そして1980年8月、あの日、  
50代半ばの女性が心肺停止状態  
で、ICUに運ばれてきました。  
この患者さんが私を訪問看護の道  
へ進ませたのです。  
(聞き手は編集委員 大谷真幸)